発行日:

2017年3月17日

明治学院大学心理学部 白金心理学会報

さいころ



花田 安弘 学会長(心理学部長)

第9号

2016-2017

白金心理学会イベント

- 2016年5月18日 第20回キャリア支援シリーズ 「第4回法務技官業務説明 会」開催
- 2016年6月25日 白金心理学会第9回大会: 総会、2015年度奨励費獲 得者研究成果報告、2016 年度奨励・活動費獲得者ポスター発表、シンポジウム 「心理学研究の変遷」、懇親会 開催
- 2016年6月29日 在学生部会SC第21回キャリア支援シリーズ「大学院生による院進学説明会2016」 開催
- 2016年10月12日 第22回キャリア支援シリーズ 「第5回法務技官業務説明 会」開催
- 2016年11月21日 在学生部会SC第23回キャリア支援シリーズ「キャリア支援 援(ゼミ・授業・コース)相談 会」開催

会報第9号発行に寄せて

皆様、こんにちは。さいころ第9号をお届けします。

昨年の8号のご挨拶では、心理学科に関する話題として、公認心理師法の成立と、それへの対応が必要であるというお話をしました。 当初は昨年夏くらいには資格に必要な科目などのカリキュラムが決まるのではと言われておりましたが、この1月末になってもまだ決まっておりません。資格取得に必要な科目がはっきりしないとなかなか対応を考えることが難しく、速やかな決定が望まれるところです。とりあえず心理学科としては、実習を増やす必要が確実にあるだろうとの予測に基づき、主にそれに対応するための助手の増員を決定しております。他大学に遅れを取らぬように、対処していくつもりでおります。

教育発達学科は2016年度の2年次生からコース制になりました。児童発達コース、特別支援コース、国際教育コースの3コース

です。これは学生の二一 ズの多様化と現代の教育 内容の広がりに対応する ためであり、卒業後は、 児童発達コースでは幼稚 園や小学校教諭、特別支

園や小学校教諭、特別支援コースでは特別支援学校教諭、国際教育コース

では教職以外にも在日外



花田 安弘先生

国人子弟のための行政や福祉などの職が想定されております。このようなコース制により、学生諸君も早くから自分のキャリアを考えるきっかけとなると思われます。

心理学科、教育発達学科ともに、社会の変化に対応しつつ、発展するべく努力を重ねてまいりたいと思います。卒業生の皆様のますますのご支援をお願い致します。

白金心理学会第10回記念大会のお知らせ

清水 良三先生(心理学科教授)

目次:

会報第9号発行に寄せて

白金心理学会第10回記 念大会のお知らせ 1

5

第9回大会報告 2

研究奨励事業報告 2

博士号取得者講演 3

シンポジウム「心理学研究 **3** の変遷」

在学生部会活動報告 4

さいころトピック 感情状態と情報処理方略

新任教員のご紹介

事務局よりお知らせ

白金心理学会第10回大会が、2017年6月 11日(日)に行われます。第9回大会は卒業 生の皆さまに参加していただけるよう、土曜 日に開催しましたが、やはり日曜がよいとい う意見も多かったため、日曜開催といたしま した。

白金心理学会は10年を迎えます。これを記念した第10回記念大会として、二つの企画を立てております。一つは、白金心理学会創立のアイデアをお出しいただいた、創設時の学会長であります井上孝代先生と、初代白金心理学会実行委員長であります金子健先生をお招きしての対談企画「白金心理学会の10年とこれから」です。卒業生の皆さまの多数のご参加を願っております。

もうひとつは、法政大学教授で本学心理学 科でも非常勤講師をしていただいている、犯 罪心理学の泰斗であります越智啓太先生によ る記念講演「心理学で犯罪を捜査する〜犯罪 捜査心理学の最前線〜」です。これまで白金 心理学会では希望する企画についてアンケートにご協力いただいていましたが、その中で卒業生や在学生からのリクエストが多かった「犯罪の心理」についての講演が、越智先生のご快諾により今回実現することになりました。また研究奨励の発表もあります。

卒業生の皆さま、在学生のみなさん、たくさんのご参加を期待しております。そして井上先生、金子先生、講師の越智先生を囲んでの懇親会だけでも結構ですので、どうぞ奮ってご参加ください。



懇親会の様子

第9回大会報告

清水 良三先生(心理学科教授)

第20回キャリア支援シリーズ 「第4回法務技官業務説明会」

17名の参加があり、説明会中ほとんどの学生がメモを取りながら真剣に聞いていました。説明会は、パワーポイントを使用して、参加者が画面を見ながら説明を聞く形で行われました。 更生施設の説明、そこで働く職員のこと、職員の仕事の流れ、職員を目指す方法・・・など、写真を豊富に使用し、分かりやすく説明をしていただきました。

第21回キャリア支援シリーズ 「大学院生による院進学説明 金2016」

説明会は、2部構成で行いました。 第1部の全体説明会は、各コースご との内容説明や授業内容、普段の 院生活について説明を行い、第2部 の個別相談会は、各ゼミに分かれ て、参加者から個別に質問や相談を 受け付け、大学院生が質問に直接 答えました。大学院説明会に興味 のある学生が多く、40名近い参加者 が来場し、予想以上の盛況ぶりでし た。

第22回キャリア支援シリーズ 「第5回法務技官業務説明会」

説明会の内容は主に法務技官の職務内容、一日の仕事の流れを配属先(少年鑑別所・少年院・刑務所)ごとに写真を用いて分かりやすく説明して頂きました。今回は11月11日に締め切りとなるインターンの募集のお知らせがメインでありましたが、法務技官の福利厚生の良さをアピールされ、学生も興味を示していました。



第23回キャリア支援シリーズ 「キャリア支援(ゼミ・授業・コース)相談会」

教育発達学科40名、心理学科38名参加と大盛況となった今イベントでは1年生の参加は少なかったものの、ゼミ選択の時期とも重なり、2年生は複数のゼミの話を求めて参加していました。ゼミごとにブースを設け、自由に行き来することが出来て、とても良かったという声が上がっており、他にも、とても参考になったので来年度もぜひこのような会を開催してほしいとの要望も多数ありました。

白金心理学会第9回大会は、2016年6月25日(土) に行われました。

今回の第9回大会は、久しぶりに土曜日開催となりました。学部の土曜午後の授業がごく一部となったことと、土曜日の方が卒業生の方も多く参加していただけるのではないかという期待を込めてのことでした。また、卒業生の方に役に立ち、興味を持っておいでいただける企画、そして在学生にも役立つ企画を考えました。その結果、卒業生になじみのある旧教員をお招きし、心理学科創立当初から最近の卒論のテーマの変遷をみることで、心理学のトピックがどう展開してきているのか、学生の関心領域がどのように変化してきたかを話題提供していただくことにしました。

総会の後、メイン企画が始まりました。

心理学科創立当初の教員で、現在は上智大学教授の道又爾先生、心理学科第一期生で、現在専修大学教授ならびに本学心理学科の非常勤講師をなさっていただいている大久保街亜先生、そして心理学部長の花田安弘教授の3人によるシンポジウム「心理学研究の変遷」です。

道又先生は、懐かしい心理学科一期生をはじめ学 科創立初期の学生の写真を交えながら、最近の心理 学トピックをお話し下さいました。花田先生は、卒論の執筆人数の変遷データをもとに、学生の関心の変化についてお話し下さいました。大久保先生は、フロアにいる卒業生や、学生に質問を投げかけ、発言を引き出すという双方向の授業さながらのスタイルで、参加学生の心理学への学習意欲を引き出してくださいました。

その他、研究奨励、活動奨励の報告、ティーブレイクにはそのポスター発表も行われ、質問も多く、 大変にぎわいを見せました。

懇親会はパレットゾーンでおこないました。広す ぎるかと心配しましたが、適度な空間で、皆さん ゆったりと交流していただけたようです。

御登壇いただいた皆さまはじめ、準備や運営をしてくれた事務局と学生部会(SC)のみなさん、ありがとうございました。



ティーブレイクの様子

研究奨励事業報告

白金心理学会第9回大会において、研究成果報告および活動報告がなされました。

1. 2015年度研究奨励費獲得者による研究成果報告博士後期課程5年の鏑木眞喜子さん他卒業生1名による「低出生体重児の発達と気質的特徴および育児ストレスとの関連についての検討」、博士後期課程3年の石田航さん他前期課程院生2名による「1度きりの研修会が高校生の被援助志向性に与える影響-研修会プログラムの作成と成果の検討ー」、心理学科4年の福士佳純さんを代表として4年生、卒業生、臨床心理学コース院生を含む他27名による「精神保健ボランティア経験による心理的変化」の3件について、研究代表者を中心に研究成果の報告がなされました。これらの研究成果は学会HPにて要旨を公開する予定ですので、是非、ご覧下さい。

2. 2015年度活動奨励費獲得者による活動報告

心理学科3年の天本夏美さん他4名による「明学生の通学マナー 〜実態調査と意識調査〜」では、明学1、2年生は広がっての歩き、歩きスマホなどの行動を迷惑だと認知しながら行っていることなどが報告されました。心理学科2年生の伊東綾香さん他6名による「Twitter使用においての標語作成」では、数種の標語から良いと思う標語を明学生に選択してもらい、「ネットの中にも礼儀あり」など周囲への気遣いを推奨した標語が選択されたことなどが報告されました。心理学科2年の松田美鈴さん他5名による「人はどういう人を好印象に思うか」では、文献研究を基に『就活に挑む女子大生へ!振る舞いや所

松永 あけみ先生(教育発達学科教授)

作の印象』というパンフレットを作成しました。心理学科3年の祖山涼香さん他1名の「心理学部生の抑うつと横浜キャンパスでの気晴らし行動の関連性」では、明学生への質問紙調査から、抑うつと気晴らし行動の頻度とには関連性はなく、主観的効果と低い負の相関が見いだされことなどが報告されました。

3. 2016年度奨励費獲得者の発表

研究奨励費として採択された研究は、博士前期課程1年の鈴木雄大さん他2名による「視覚的な運動および注意力と思考抑制の関連について」です。

2016年度の応募は、残念ながら研究奨励費1件のみで、活動奨励費への応募はありませんでした。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。



研究奨励費獲得者による研究成果報告の様子

大学院心理学研究科博士後期課程 博士号取得者講演

社会的促進及び抑制の発生機序の解明と理論構築 —Zajonc 動因説を越えて—

請園 正敏

たとえば、家にいて一人で仕事をしていると 捗らないのに、他人がいるカフェで仕事をする と捗るということを経験したことがないだろう か。このような他者が存在することによって課 題の遂行が促進される現象を社会的促進、逆に 抑制される現象を社会的抑制と呼ぶ。社会的促 進および抑制は思考、感情、運動、記憶など 様々な心理現象において起きる一般的な現象で あり、ヒトのみならず、ラット、鳥、ゴキブリ、 八工などのヒトから昆虫まで広くみられる現象 である。また、課題中の他者の存在のあり方が 二つに大別可能であり、一つは参加者自身が課 題を行っている最中に他者が見物人として存在 する状況でみられる「観察効果」、もう一つは 他者が参加者自身と同じ課題を同時に遂行する 状況でみられる「共行動効果」である。本研究 では、社会的促進および抑制の生起プロセスを 説明する「動因説」の再構築を目指し、その発 生の脳内機序解明を目指した。

社会的促進および抑制は、他者の存在の知覚を契機として発生する。動因説によれば、他者の存在の知覚を通じて覚醒度が上昇し、その後の課題遂行量に影響を与えると考えられてき

た。しかしながら、本研究の結果、どのような要因であっても覚醒度が上昇した際に、他者が存在することで、課題遂行量に促進効果を与えることが示唆された。よって、覚醒度に影響を与える文脈に、他者の存在が組み合わさることで社会的促進が生じると考えられ、動因説を修正することができた。

さらに、脳内機序解明のため、ラットを用いて社会的促進が生じる脳部位を検討した。 他者の存在の知覚を契機として発生すると考えられているが、観察効果と共行動効果では、 他者の存在のあり方が異なっており、脳内で主要な部位が異なると考えられる。よって、 心の理論と深い関係がある「前部帯状回」を 損傷させ、観察効果と共行動効果が生じるかをそれぞれ検討したところ、観察効果は消失 し、共行動効果は出現した。このことから、 見た目では、同様の促進、または抑制効果を示していた、両効果は脳内では異なる部位によって支えられていることが示された。よって、動因説における両効果が同列に扱われていた点の修正を行うことができた。



請園 正敏さん



講演の様子

シンポジウム「心理学研究の変遷」

最初に花田から、登壇者である道又爾上智大学教授と大久保街亜専修大学教授と私の紹介があり、今回はこれまでの心理学科の卒業論文のうち主に基礎系の論文を中心に心理学研究の変遷について、道又先生と私からお話しし、臨床系や教育発達学科の卒業論文についてはまた別の機会とする旨の案内があった。その後、心理学科一期生の大久保先生に司会をお願いし、シンポジウムを開始した。

大久保先生からは、この会のメンバーにとって関わりが最も深い研究は卒業研究なので、心理学科の卒業研究について学科発足当時の教員である道又先生から90年代の卒業研究について、そして現在の心理学科教授である花田から最近の卒業研究について紹介していただくこと、卒業研究にとって重要なのは、新しい問題を提起しそれへの解答を示し、その解答により新しい世界を見せることであり、卒業論文に取り組む経験は社会に出てからも役に立つはずであること、が話された。

花田 安弘 学会長(心理学部長)

続いて道又先生より、創設期の心理学科の様子や卒業研究について紹介があった。道又先生は1990年の心理学科創設から1998年まで心理学科教員として在籍していたこと、初期は前例がないので何でも自分たちで考え作っていったこと、若手の教員は自分一人で仕事が多く大変だったが、反面楽しいことも多かったこと、初期の卒論の例として、和音プライミングをテーマにしたユニークな研究などが紹介された。実験室も設立当初は全くなく、実験には苦労が多かったが、学生数が少なく学生と距離が近かったこと、大久保街亜さんを始め、良い学生に恵まれたことが良かったとのことであった。

花田からは、まず卒論提出率について紹介があり、しばらく40%前後が続き、2006年ころから20%台にさがり、教員に危機感が生じて対応策を検討し、2013年から要旨集を作り全学年に配って1、2年生に先輩の卒論の内容を紹介し興味を持ってもらう



道又 爾先生



大久保 街亜先生



花田 安弘先生

第9号



懐かしい写真で振り返る



シンポジウムの和やかな様子



フロアで直接意見を伺う様子

試みを始めて、その効果か最近は提出率が4 割近くに回復してきたことが紹介された。最 近の基礎系の実験としては、認知心理学分野 での視線計測装置を使った、視線のカスケー ド現象についての卒論や、生理心理学分野で の、ラットを用いた海馬誘発電位の振幅と海 馬シータ波の位相の関連についての卒論など が紹介された。視線のカスケード現象に関す る卒論は、その後学会発表され、学会誌にも 掲載された。卒論の内容が学会誌に掲載され たのは心理学科で初めてのことと思われる。

以上2名の発表の後、大久保先生がフロア の意見を伺ったところ、在学生からは卒論を 書きたいと思うが、就活もあり書けるかどう か不安もある、という意見があった。それに 対し金子先生から不安になるのは分かるがそ れに立ち向かうバイタリティが欲しいという ご意見があった。登壇者から、卒論に取り組



卒論提出率の推移

むことは大変ではあるが、やり遂げることによ り自分に自信を持てるし、自分の大学での勉学 のまとめが形になること、テーマの選定から実 験や調査の準備、実施、データの分析、全体の 構成を考え執筆、という過程を経験すること は、社会に出てからも必ず役に立つことであ り、多くの学生さんが卒論に取り組むことを期 待する発言があり、シンポジウムを終了した。

在学生部会活動報告

す。2016年度の活動を報告します。

在学生部会では、心理学部生の支援を目的 として、フレッシャーズ研修と心理学科交流 会、スポーツ交流会を毎年企画しているほ か、今年度は新たな試みとしてキャリア支援 (ゼミ・授業・コース)相談会を開催しまし た。また、院生SC主催の行事として院進学イ ベントを行いました。開催時期はフレッ シャーズ研修が4月、スポーツ交流会が5月、 心理学科交流会と院進学イベントが6月、キャ リア相談会が11月でした。

SC活動一覧

4月 フレッシャーズ研修(1年生)

5月	教育発達学科 スポーツ交流会(1年生)
6月	白金心理学会第9回大会 運営補佐 心理学科交流会(1年生) 第21回キャリア支援イベント 「大学院生による院進学説 明会2016」(3、4年生)
11月	第23回キャリア支援シリー ズ「キャリア支援(ゼミ・授 業・コース)相談会」(1、2年 生)



まず初めにフレッシャーズ研修ですが、こ れは新しく入学した1年生を対象に、1年生同 士で交流を深めるレクリエーション、学生生 活についての説明やSCによる個別相談会など を行うイベントです。昨年度までは心理学科 と教育発達学科の合同で開催してきました が、今年度は学科ごとに違ったスタイルでの 開催となりました。1年生にとっては入学して

笠原 駿(在学生部会SC)

こんにちは、白金心理学会在学生部会SCで 間もない時期のイベントということもあり、初 めは皆緊張した様子でしたが、終わるころには たくさんの笑顔が見られました。

> 次に行われたスポーツ交流会は教育発達学科 の1年生を対象にしたイベントです。教育発達 学科はもともと学科内の仲が非常に良いことで 有名ですが、様々なスポーツを通じてその絆が より強固なものになったように思われます。

> 心理学科交流会は心理学科におけるスポーツ 交流会です。例年はSCのみで運営を行ってき ましたが、今年度は1年生の有志を募り、サブ SCとして当日のサポートを行ってもらいまし た。こちらも1年生同士の中を深めることに貢 献できた会となりました。

> キャリア相談会は、ゼミに所属する3年生が ゼミ選択を直前に控えた2年生の様々な質問に 答えるという会です。当日は予想を大きく上回 る学生が来場し、参加者にとったアンケートで は満足したという声を多数聞くことが出来まし

> 院生SC主催の院進学イベントは、院試説明 会と個別相談会の2部構成で開催し、院進学を 目指す学生の疑問や不安を解消できる会となり ました。

今年度の活動内容は以上となりますが、来年 度の活動はただ同じ内容を繰り返すのではな く、心理学を学ぶ学生のより一層の支援ができ るよう精進してまいりますので、今後ともどう ぞよろしくお願い致します。

さいころトピック

感情状態と情報処理方略

田中 知恵先生(心理学科教授)

かつて感情は理性的な認知を妨害する要素としてとらえられてきた。現在でも、たとえば、感情的な人"と他者を表現する場合には、一般的に否定的な意味合いを含めることが多いだろう。しかし最近では、感情が認知過程の制御や社会的状況に対する解釈において適応的な働きを持つことが明らかになっている。本稿ではそのひとつとして、感情が情報処理方略に対して及ぼす影響について取り上げる。

情報処理方略とは、情報に対して取られる一連の処理の仕方のことである。受け手の感情状態が方略の採用にどのような効果を持つか、社会的認知の研究では実証的に検討がなされている。これまでの研究では、ポジティブな感情状態にある場合に簡便なヒューリスティック処理方略、ネガティブな感情状態にある場合に精緻なシステマティック処理方略が取られることが多く示されてきた。こうした現象は、情報としての感情説(Schwarz, 1990)を用いて解釈されることが多い。すなわち、他の源泉から生じた感情である場合にも、感情は処理対象に対する感情と誤帰属され、安全な状況を示すポジティブ感情時にはヒューリスティック、問題のある状況を示すネガティブ感情時にはシステマティック処理方略がとられるという説明である。

しかしながら、近年の実証的研究では、時としてポジティブな感情状態にある場合の方が対象に対し精緻な処理がとられることが見出され、これまで提出された理論では十分に現象を説明しえないことが示唆されている。そのひとつが、自己の成長に有用な情報に対する処理である。

筆者の研究では、調査参加者に現在の感情状態につ いて回答を求め、参加者をポジティブ感情群とネガ ティブ感情群に分割した。そして親しい人から"わる いところ(短所)"もしくは"よいところ(長所)"を 言われたとき"わるいところを改めるために努力しよ うと思う"など短所情報に対する対処、"よいところを 言ってくれるのは自分にとってためになる"など長所 情報に対する対処への賛成の程度について回答を求め た。その結果、短所情報に対して、ポジティブな感情 状態にある場合の方が対処しようとすることが示され た。また"努力すれば人は変われると思う"などの項目 によって測定された成長の信念を強く持つ場合の方 が、いずれの情報に対しても対処しようとすることが 示された(田中, 2014)。これらの結果は、ポジ ティブな感情が自己の否定的側面に関する情報へのシ ステマティック処理を促すこと、またその処理を通じ て成長目標を遂行させる可能性を示唆している。

また別の研究では、大学生の実験参加者に、大学生

向けパーソナリティ・テストもしくは高齢者向けパー ソナリティ・テストへの回答を求め、情報を処理する ことの成長の予期を操作した。次にポジティブあるい はネガティブな映像視聴により感情を導出した。続け てコンピュータ・プログラムによって先ほど参加者が 回答したパーソナリティ・テストの結果として情報を 偽フィードバックし、短所あるいは長所情報に対する 探索の程度を測定した。コンピュータ画面には"直す べきわるい点"と"伸ばすべきよい点"について示す ボックスが各5個呈示されており、いずれかをクリッ クするとその内容が示された。さらに、その内容につ いて詳しく知りたい場合には、"続きを読む"ボタンを クリックして詳細情報をみることが可能であり、参加 者は120秒間、自由にこれらの情報を探索した。各情 報が探索される回数や呈示された時間について測定し たところ、ポジティブ感情状態にある場合には、短所 情報の方が長所情報よりも多く探索されていた。特 に、パーソナリティの社交的側面に対するフィード バックでは、成長の予期が高い条件においてこの効果 が認められた。この結果も、ポジティブな感情状態に ある場合、ネガティブな感情状態にある場合よりも、 人が自己の成長を予期させる情報に対しシステマ ティック処理方略をとることを示している(Tanaka & Harashima, 2015) 。

自己の否定的側面に対する情報の処理は、長期的には成長を予期させるものの、短期的にはネガティブ感情を予期させる。そのため、そうした情報の探索や内容の受容は痛みを伴うものである。しかしながら、ポジティブ感情は有用な情報への精緻化を促し、その結果として自己成長目標を遂行させると考えられる。他方、ネガティブ感情は、これ以上感情状態が悪くならないよう感情制御目標の遂行を促すため、否定的情報に対してヒューリスティック処理方略をとらせるのであろう。

実証的検討により明らかになったことは、感情が単に情報として働いて対象への処理方略を一義的に決定するのではなく、そのときに顕現的な他の目標の遂行を処理方略の採用を通じて行うということである。実際に、私たちが何か情報を処理する際には、情報処理目標だけが生じているわけではなく、さまざまな目標が同時に生じているといえるだろう。感情状態と情報処理に関わる研究は、このように同時に複数の目標が活性化する状況に対する検討の必要性を示している。研究のさらなる発展により、現実場面に対する知見の応用可能性もより拡がっていくと考えられる。

参考文献

- 1. Schwarz, N. (1990). Feeling as information: Informational and affective functions of affective sates. In E. T. Higgins & R. M. Sorrentino (Eds.), Handbook of motivation and cognition: Foundations of social behavior, Vol.2 (pp.527-561). New York: Guilford Press.
- 2. 田中知恵 (2014). 感情状態 が自己関連情報の対処に及ぼす 影響 明治学院大学心理学紀要, 24,37-45.
- 3.Tanaka,T&Harashima,M.(2015). Positive affective states as a resource of feedback-seeking in self elevant information. Poster presented at the 16th annual conference of Society for Personality and Social Psychology (Long Beach).

第9号



垣花 真一郎先生

新任教員のご紹介

垣花 真一郎 先生 2016年4月に教育発達学科に着任しました垣花真一郎(かきはなしんいちろう)です。専門は教育心理学・発達心理学です。幼児の読み書きの習得や、科学的な概念の学習を研究しています。学ぶこと、教えることは人間だけがもつ営みであり、人間の人間らしさの源泉です。よりよい教育とは何かを教育発達学科の学生の皆さんとともに探求していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局よりお知らせ

○白金心理学会第10回記念大会のご案内

来る2017年6月11日(日)13:00から白金校舎において「白金心理学会第10回記念大会」を開催いたします。大会10回となる今年は創設時会長の井上先生、実行委員長の金子先生にお越し頂き、対談形式で創設時のお話をして頂きます。講演会では犯罪心理学の越智先生に「心理学で犯罪を捜査する~犯罪捜査心理学の最前線~」という興味深い講演をして頂きます。楽しみですね。当日は懇親会もございますので、同期の仲間や先輩、後輩たちに会ういい機会になれば幸いです。皆様お誘いあわせの上、是非ご参加下さい。(大会・懇親会共に当日参加も可能ですが、資料、料理の手配の関係上、白金心理学会ホームページからの事前申し込みにご協力ください。なお、懇親会のみ有料です。)

○白金心理学会のホームページがリニューアルします!

2017年度より白金心理学会のホームページがリニューアルします。昨今のスマートフォンの 普及を考慮し、スマートフォンでも見やすいようになりました。その他にも情報が瞬時に得られ るように細部に渡って、分かりやすくバージョンアップ致します。是非、ご覧ください。



白金心理学会 イメージキャラクター 「さいころくん」

発行:

明治学院大学心理学部 白金心理学会 事務局

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学11号館302号室

TEL & FAX: 03(5421)5814

問い合わせ用E-mail:

shinro@psy.meijigakuin.ac.jp

白金心理学会第10回記念 大会参加申し込み及び住所 変更は下記URLまで

URL:http://

psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/

○教員からのお知らせ

2017年3月、川渕竜也先生(教育発達学科助手)、井陽介先生(教育発達学科助手)、杉山雅俊先生(発達教育学科助手)が退職されました。

尚、杉山雅俊先生(発達教育学科助手)は同学科助教になられます。

今年度のサバティカルは清水良三先生と野村信威先生と新井哲夫先生です。今年度は出校されませんので、ご注意下さい。

○卒業生のみなさまへ 白金心理学会にご入会下さい!

すでに学部生および大学院生の皆様には入学・進学時にリーフレットを配布しご案内しておりますが、在学期間中は学会費として一人年間2000円をお預かりしております。

卒業生の皆様におかれましても、この機会に是非ご入会下さいますようお願いいたします。 お預かりした会費は、次のような活動の費用に充てられます。

- ①心理学部(前身諸学科含む)卒業・修了生、教員、在学・在院生、との交流会の企画および運営
- ②在学・在院生、卒業・修了生のキャリア支援のためのイベント企画及び運営
- ③心理学部(前身諸学科含む)、心理学研究科名簿管理
- ④年次大会・総会開催、会報発行、講演会企画及び運営
- ⑤白金心理学会に関わる広報活動

ご不明な点は、白金心理学会事務局までご連絡ください。皆様のご入会をお待ちしております。

○卒業後の住所変更登録にご協力下さい!

卒業時から住所が変わっている方、また、ご実家の住所が変わっている方は、白金心理学会事務局にご一報ください。住所変更登録は白金心理学会ホームページ「卒業生へのお願い(連絡先変更登録)」ページで登録できます。ご協力をよろしくお願いいたします。